

恒星間飛行が  
当たり前になって  
数千年

人間をはじめとする  
知的生命体は  
支配域を順調に  
拡大していった

長期間の  
惑星間外遊  
お疲れ様でした

あと3時間ほどで  
ワームホールに  
着きます

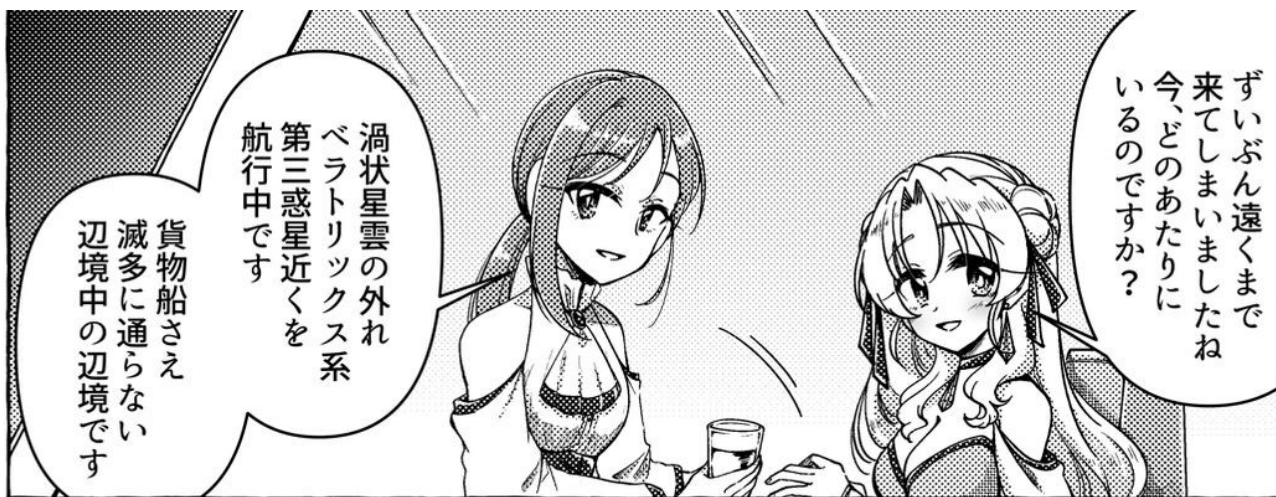


お飲み物を  
用意しましょうか？

フシヤナ王女殿下

ありがとう  
では  
お水をお願いします





船は惑星の重力に  
引つ張られ  
墜落

ガザ

私はかろうじて  
王女と  
脱出することができた

よかった  
気温も温暖で  
植物も生えている…

日のあるうちに  
水と食料を  
確保しましょう

ええ…

すみません…

私が早く  
船の異常に  
気づいていれば…

貴方が  
気に病むことでは  
ありませんよ

ガザ

ガザ



丸一日歩き続け  
ようやく  
淡水の泉を  
見つけました

はあ…  
気持ちいい…

澄んだ空気と水…  
この星には  
文明は  
まだないようですね

次は食べ物を  
見つけないと…

!?

今  
人影が…ッ!

私たちの  
服…ッ!!



待つ...!?

ガッ



その...  
ようですね...

人間...?



見かけは  
人間そっくりですが

言葉は  
喋れないよう  
ですね

あれが  
この惑星の  
最高の生物…  
なのでしょうか？



侮辱するような  
言い方をしては  
いけませんよ

えっと…  
はじめまして

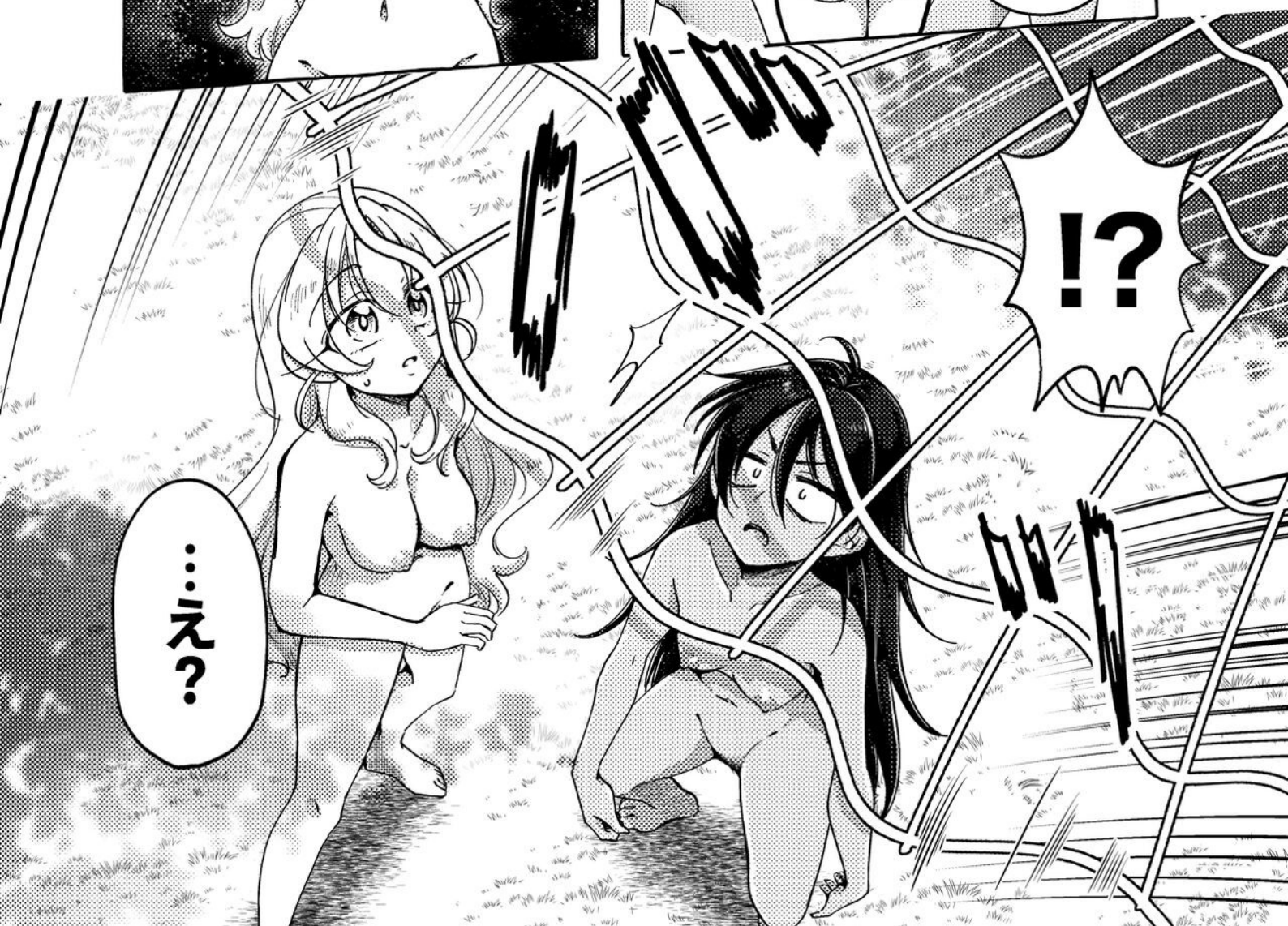
——  
って  
フシヤナ様!?

?



ほわ!?  
王女に  
何を…ッ!

だ、大丈夫…  
あなたは  
離れていて  
ください







油断した…  
原始的だけど  
文明があった  
なんて…

あれが  
この星の  
支配生物…  
人間を獣みたいに  
扱うなんて…!

フシヤナ様も  
ひよつとして  
あんな風に…!

ゆ  
許せない…!

こんな場所に  
いつまでもいたら  
危険だ…!

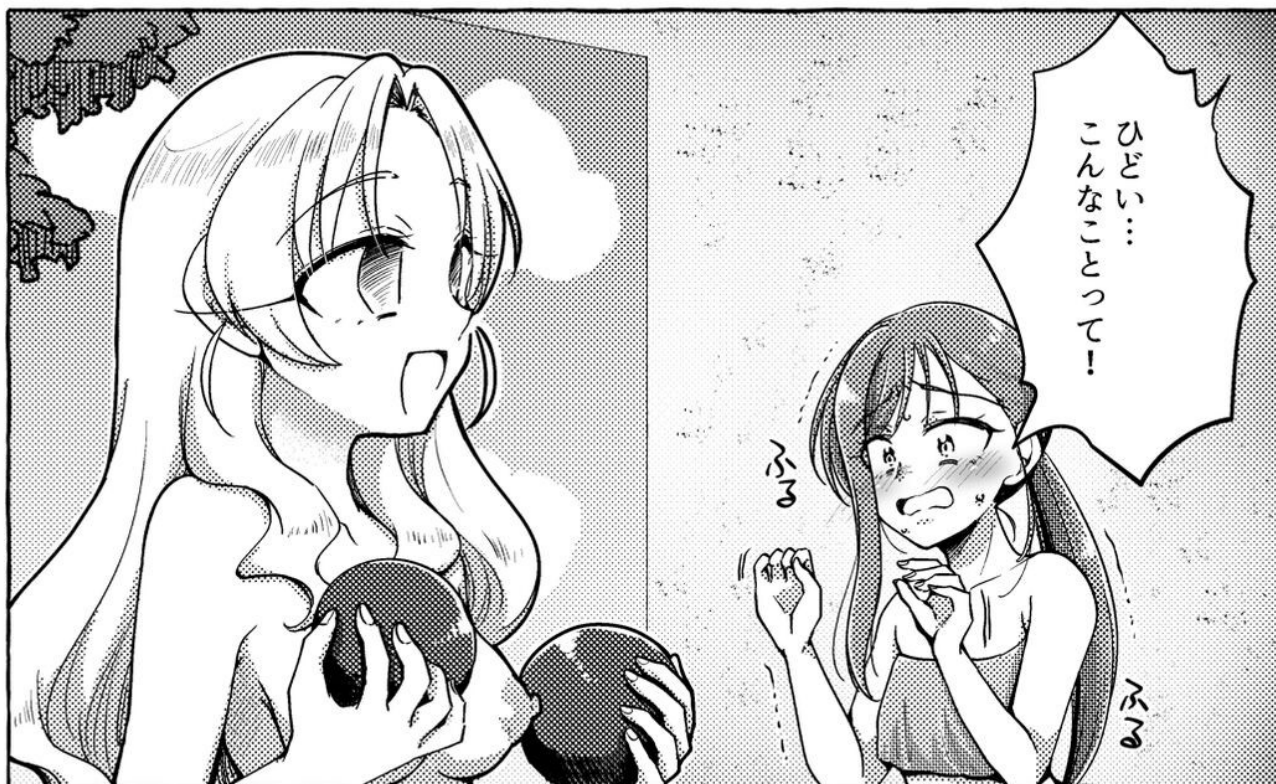
はやく  
フシヤナ様を  
救出して  
遠くに逃げないと

部屋が  
いっぱい…

ん?



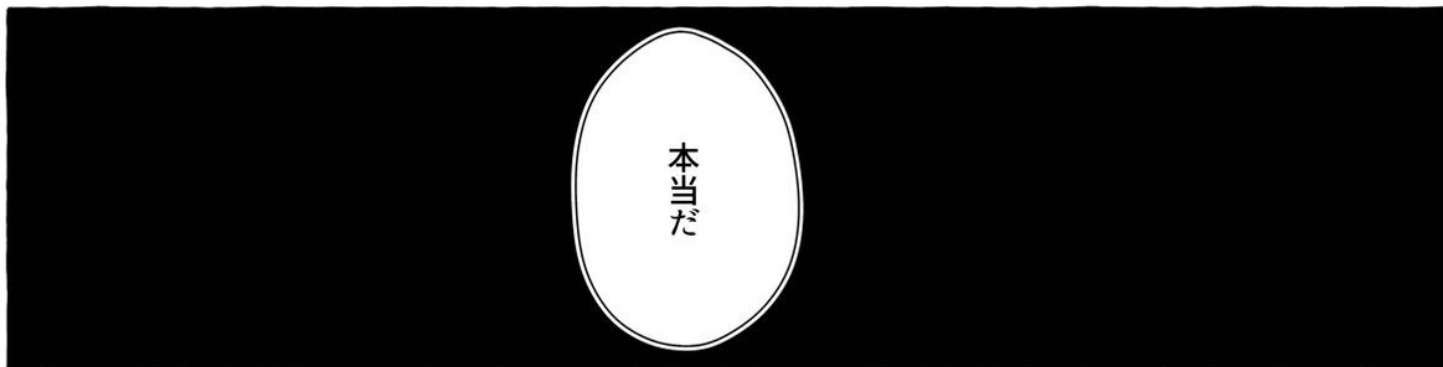
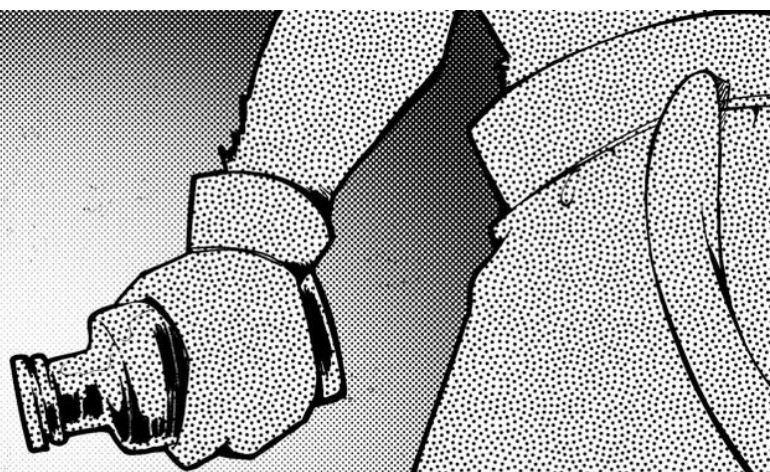






早く…

そんな…  
まさか…

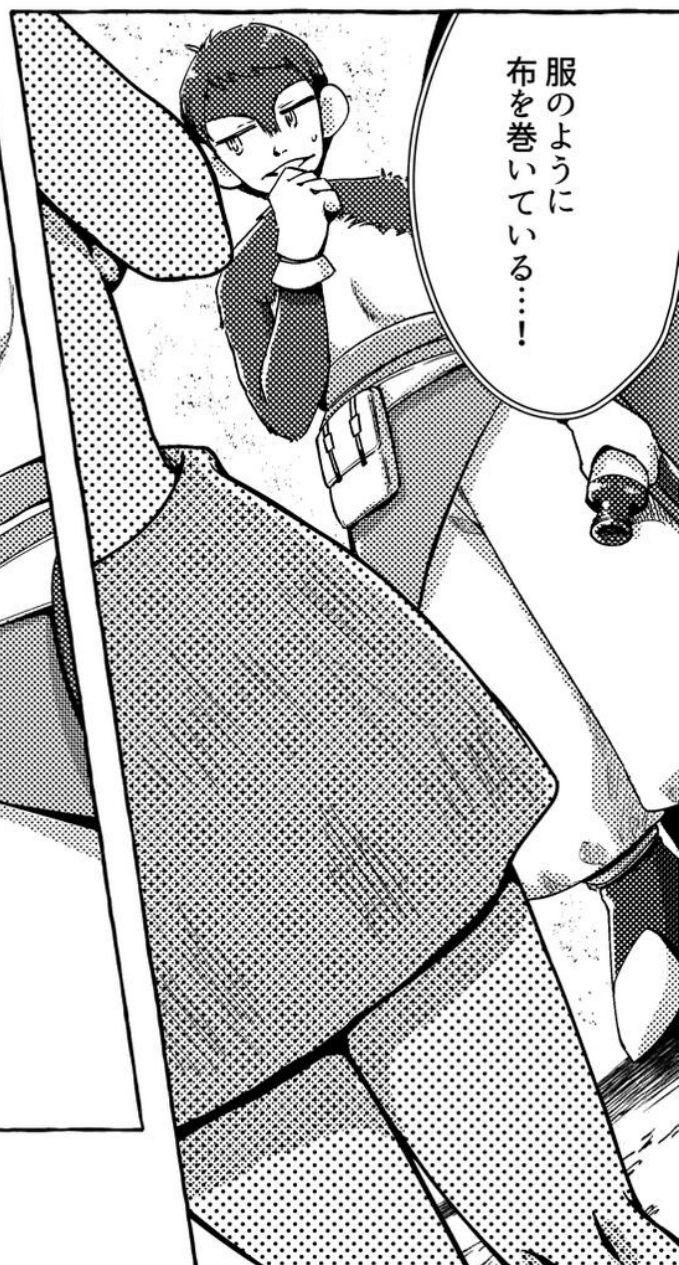


本当だ



仲間の裸に  
羞恥心を感じて  
陰部を隠したとか…

10/11



服のように  
布を巻いている…!





捕まえる前に  
様子を見ていましたが  
変わった所はなかった

ちようど  
群れのサルに  
食い物を  
乞っていました



金髪のは  
飼いサルだったから  
群れがなく  
食べ物を得る  
手段がない――



毛づくろいしたり  
必死に気に入られようと  
していたっけ

そして  
サルが羞恥心を——  
とかはありえないでしょう

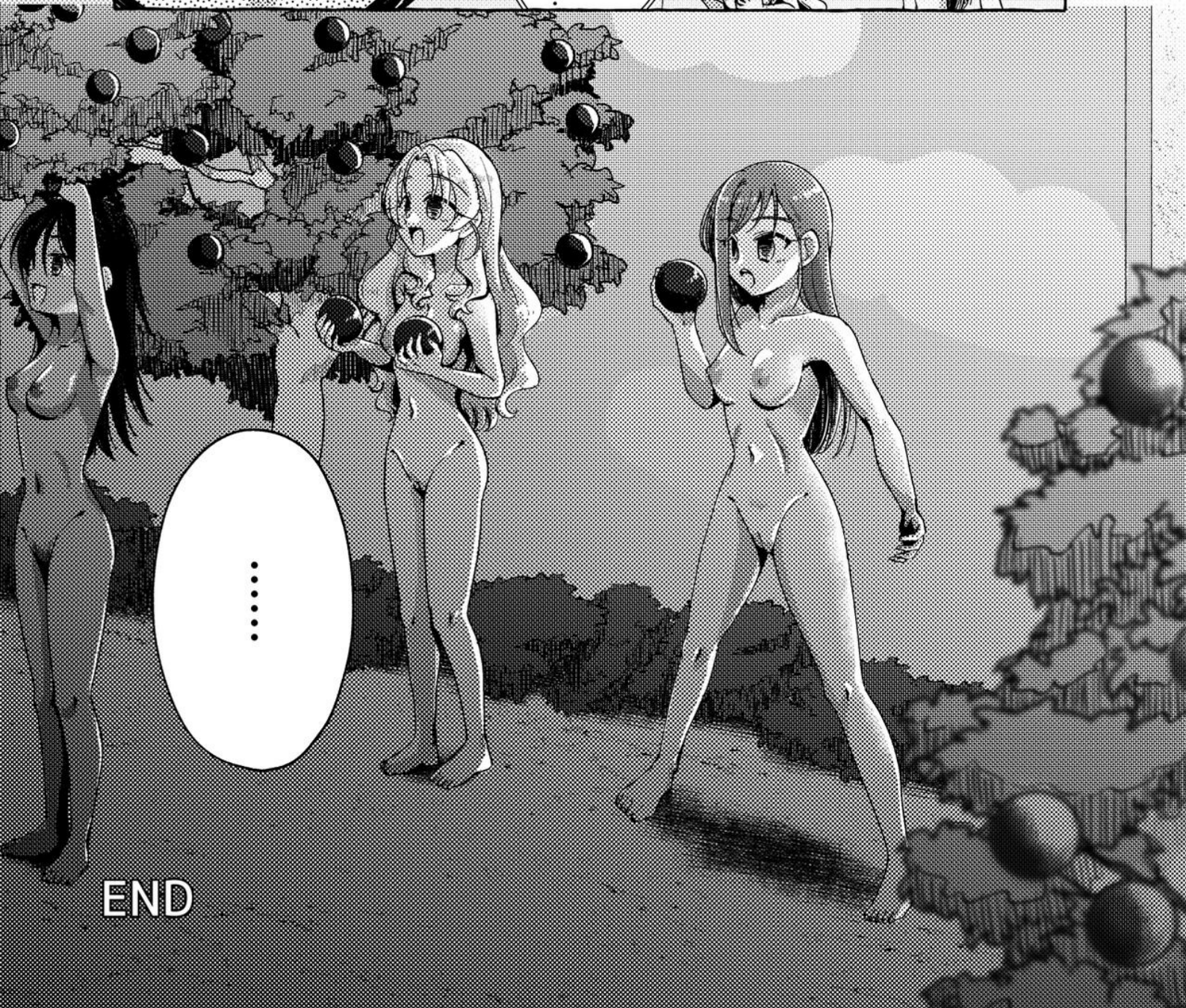
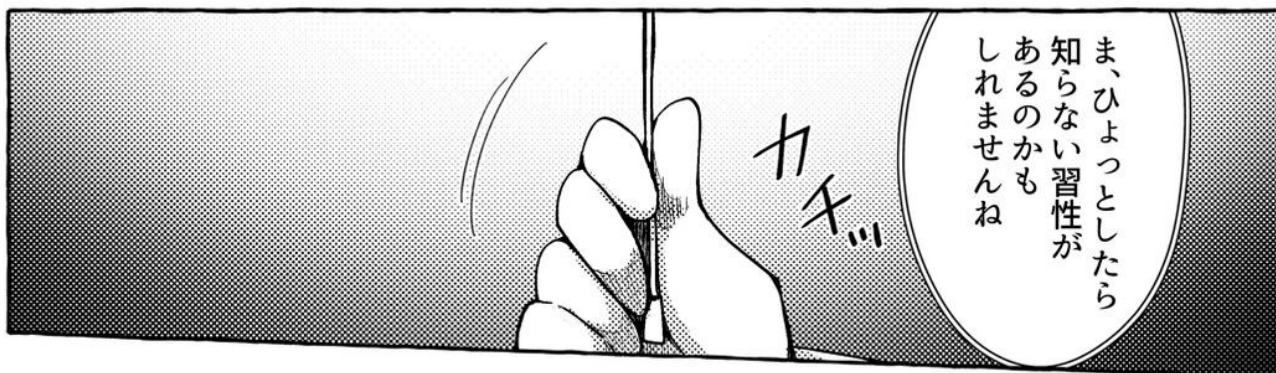
習性でしょうが  
金髪の奴は  
敵意が無いことを  
示すため

陰部を見せつけて  
ましたから

がほ、

?

まあ呑気に  
裸の見せ合いっこ  
していたから  
簡単に  
捕まえられたけど



END